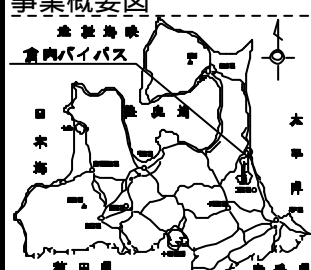
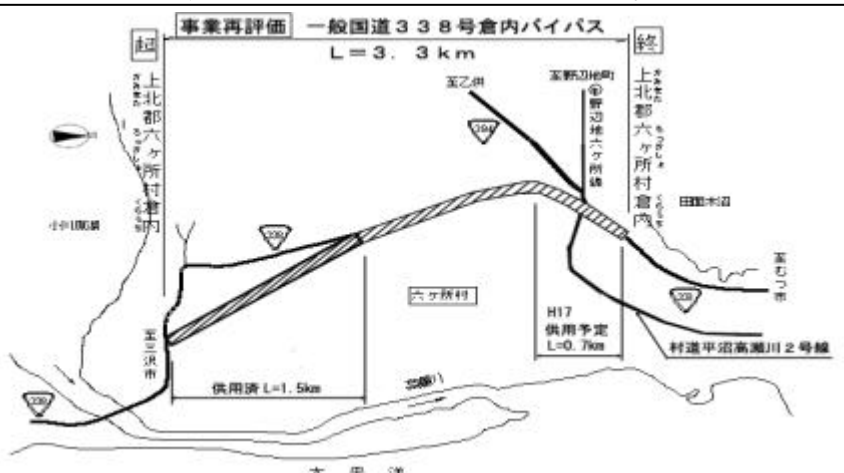


# 再評価結果（平成17年度事業継続箇所）

担当課：道路局国道・防災課

担当課長名：鈴木 克宗

<b>事業名</b>	一般国道338号 倉内バイパス			<b>事業区分</b>	一般国道	<b>事業主体</b>	青森県										
<b>起終点</b>	自：青森県上北郡六ヶ所村倉内 至：青森県上北郡六ヶ所村倉内			<b>延長</b>	3.3 km												
<b>事業概要</b>																	
一般国道338号は、北海道函館市を起点とし、青森県上北郡下田町に至る延長約22.9 kmの幹線道路である。倉内バイパスは、人家連担部で幅員狭小な交通の隘路区間を解消し、加えて堆雪帯の設置により冬期間においても、安全で円滑な交通確保を目的とした、延長3.3 kmの4車線（暫定2車線）道路である。																	
S55年度事業化	S61年度都市計画決定 (年度変更)	S55年度用地着手	S59年度工事着手														
全体事業費	25億円	事業進捗率	75%	供用済延長	1.5 km												
計画交通量	8,100台/日																
<b>費用対効果分析結果</b>	B/C (事業全体) 5.4 (残事業) 5.1	総費用 (残事業)/(事業全体) 7/34億円 事業費：5/30億円 維持管理費：2/4億円	総便益 (残事業)/(事業全体) 36/185億円 走行時間短縮便益：36/180億円 走行費用減少便益：0/6億円 交通事故減少便益：0/-1億円	基準年	平成16年												
<b>事業の効果等</b>																	
・安全で安心できるくらしの確保（三次医療施設（八戸市民病院）へのアクセス向上） ・個性ある地域の形成（主要な観光地である下北半島国定公園へのアクセス向上）																	
他9項目に該当																	
<b>関係する地方公共団体等の意見</b>																	
一般国道338号は、地域交流の促進、下北半島周遊観光の拡大等の重要な役割を果たすことが期待されており、十和田市、三沢市をはじめとする関係2市9町2村の首長で構成する上北地方行政連絡協議会より、早期整備の要望（平成16年10月13日）を受けている。																	
<b>事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等</b>																	
新幹線八戸駅開業に伴う下北半島国定公園への観光の観点から、道路整備の必要性は高まっている。																	
<b>事業の進捗状況、残事業の内容等</b>																	
現在までに起点側1.5 kmを供用済みである。残る1.8 km区間については、一部用地補償交渉が難航し長期間を要したが、平成17年度には終点側0.7 km区間について部分供用を図る予定である。																	
<b>事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等</b>																	
今後は、未供用区間の用地買収の進捗に努め、早期に全線供用を図る予定である。																	
<b>施設の構造や工法の変更等</b>																	
再生砕石、再生合材を積極的に利用し、コスト縮減を図っている。																	
<b>対応方針</b>																	
事業継続																	
<b>対応方針決定の理由</b>																	
以上の状況を勘案すれば、当初から事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。																	
<b>事業概要図</b>																	
																	
<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <th>凡</th> <th>例</th> </tr> <tr> <td>■</td> <td>供用中</td> </tr> <tr> <td>■</td> <td>事業中</td> </tr> <tr> <td>▨</td> <td>再評価箇所</td> </tr> <tr> <td>▨</td> <td>うち供用中</td> </tr> </table>	凡	例	■	供用中	■	事業中	▨	再評価箇所	▨	うち供用中							
凡	例																
■	供用中																
■	事業中																
▨	再評価箇所																
▨	うち供用中																

総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したものの。